



旧茎崎町の花
ひまわり

茎崎地区区会連合会 VOL: R7-1号

区会 くきざき

発行 茎崎地区区会連合会
発行責任者 会長 小原 正彦
編集責任者 副会長 倉本 茂樹

令和7年度茎崎地区タウンミーティングについて

茎崎地区区会連合会副会長 倉本 茂樹

「タウンミーティング」は、市長がつくば市の取組を紹介した後、市民と市政に関する話題について自由な意見交換を行うものとして、平成28年2月から始まりました。当初会場は、市役所でしたが、各地区の会場で行われるようになり、近年は中・高生を対象としたオンライン形式のものも開催されております。

茎崎地区においては、平成29年から、コロナ禍の令和2年・3年は行なわれませんでした。今年が7回目、6月14日(土)午前10時から11時35分まで、ふれあいプラザ多目的ホールにおいて開催されました。

今年のお客者は、昨年の41名をやや下回り33名でした。

冒頭約25分間、市長から「世界の明日が見えるまち」と題するスライドによる最近の市政について説明がありました。「世界の明日は、まだ見えていないが日本の明日は少し見えてきたかな」と思うとのこと、スローガンは「ともに創る」とし、6つのマニフェスト ①徹底した行政改革 ②安心子育て ③頼れる福祉 ④便利なインフラ ⑤活気ある地域 ⑥誇れるまちについて、これらの1期目の82の公約が90・4%、2期目の135の公約が86・1%達成して、3期目は99の公約が順調に進捗しているとのことでした。

個別の説明として、次の多くの施策の趣旨とその内容が語られました。

・つくばアプリの配信・インターネットの投票・地域交流センター機能の拡充・若者達の心の悩み等の相談窓口「青のカフェ」・公共施設の活用として茎崎老人福祉センターのお風呂場の改修・多くの福祉の例として補聴器、電動自転車等の購入の補助・高齢者等のごみ出し支援・地域連携公共

ライドシェア運行開始・自転車利用の促進・仮称「つくば市茎崎給食レストラン」・周辺市街地の活性化・スポーツ施設の整備・中心市街地の活性化・ゼロカーボンへの取組等。

市長の説明終了後、出席住民との質疑応答がありました。(質疑応答に入る前に、川又通生市民部茎崎交流センター地域支援監兼所長の紹介と挨拶がありました)

質疑応答の主なものは次のとおりです。市長は「これらの声を聞き流すことなく、対応する」と発言され、その後既に解決・処理が終わったものがあります。

Q 高齢者等ごみ出し支援の適用条件が厳し過ぎる。

A 事業を始めたばかりで、今後緩和されることもある。

Q 水道メーター読み違い対策のスマートメーターの採用。

A 労働力が減る中で、検討を進めたい。

Q 城山と高見原境界側溝の土砂流入対策は如何。

A 高見原の水問題の根本的解決策は見当たらないが、問題場所を確認して検討したい。

Q 谷田川の越水対策の進捗状況は如何。

A 県の設計が終わったと聞く。竜ヶ崎工事事務所から情報を得て知らせたい。

Q ごみ出しルール違反の分別されていないごみが収集されず貼り紙だけで残されているが、その収集について検討されたい。

A 頻繁にあるのであれば、対策を検討する。

Q 保健センターが改造中であるが、エレベーターの設置について再検討されたい。

A 今回の改造では見送ったが、更に検討する。

Q 土・日の相談窓口業務を行って欲しい。

A 電話連絡することで、対応したい。

Q 介護タクシー業務を行っているが、居室から出てくるサービスが大変で検討を要す。

A 介護保険の適用だが、財源の問題があつて直ちに対応出来

(1) 茎崎地区区会連合会へのお問い合わせは 小原会長まで ☎ 873-2434

ない。

Q 泊崎のいこいの家の跡地利用について。

A 地域の人と相談し、ベンチの設置、アジサイの植樹、駐車場の新設、水回りの新規設置などを行った。

Q 学校、児童館の安全対策が必要。

A 防犯カメラの設置等で対応する。

Q 明神地区の側溝の蓋の音対策について要望する。

A 現地調査を行って対応する。

Q 荊崎幼稚園跡地にバーベキュー施設整備。

A たまり場をあちこち造りたい。

＜市長説明＞



＜質疑・応答＞



「つくばほがらか給食センター谷田部」の見学会

荊崎地区区会連合会副会長 山下 輝雄

荊崎地区区会連合会は、つくば市が令和10年度に荊崎地区に開設を予定している「つくば市荊崎給食レストラン」に関心を抱いていることから、「つくばほがらか給食センター谷田部（つくば市藤本3-1）」を見学しました。

給食センターに7月15日(火)午前10時に到着し、施設についての説明を責任者や栄養士の方々から詳細に

お話を受けました。給食はどのような過程を経て出来るのか、食材の管理、購入についての説明を受け、地元の生産者が生産した食材の活用をされている事などの話を聞き感銘を受けました。

市内の幼稚園と小中学校に給食の提供がされており、食器については、自動洗浄機で洗い枚数を確認し、乾燥・消毒して使用している。調理能力は1日あたり12,000食を3献立で調理出来るなど。また、アレルギー対応・卵と乳製品の食物アレルギー除去にも対応している。つくば市の給食は、子供たち一人の体と心の成長を支えるために、安心で栄養バランスの良い美味しい給食を目指し、牛乳は、骨の成長に必要なカルシウムを効率よく取れるように計画されていて、発酵乳や野菜ジュースなども提供されている。おかずは、季節の食材や地場産物をたくさん使ったバラエティに富んだ献立を心がけていて、食文化の継承につながるよう行事食や郷土料理をとり入れており、不足しがちなキノコ類、海藻類、豆類などを積極的に取り入れているとの事です。

見学コースの2階には、見学用の通路や研修室が設置されており、施設見学で作業風景や施設内の作業区分・作業員の作業内容の説明を受け、改めてきめ細やかな作業体系に感心しました。

施設を見学中、大きなお釜で1,000人分のスープが作れるなど実際の作業で使用する器具の大きさに驚きました。施設内の掲示板には、細かな献立表や詳細な内容が明記されており、手洗いの基本がわかりやすく図解されておりました。

給食センターの見学後、「つくば市荊崎給食レストランの整備」について懇談会が開かれましたので、以下意見等をご紹介します。

※学校給食に関する施設整備と課題や方向性について懇談会の意見等

○「地産・地消」消費者として生産者をサポートし、生産者を増やしていくことが必要であり、材料選定の際に入札以外の方法の検討や給食にオーガニック食材を取り入れる。

○「食育」出来立ての温かい給食の提供と加工品を減らした添加物の少ない給食の提供、給食づくりに子供達を積極的に参加させる。

○「給食の在り方」保護者や一般の方が給食にもっと関心を持ち、理解を深める取り組みが必要である。将来に負担を残すような施設整備をすべきではない。

○農産物は、天候に左右されることも多く、献立と収穫時期にずれが生じるので、食品の貯蔵や加工品の開発等の推進が望まれる。

○「給食」食材における地場産物の貯蔵及び加工施設について

旬の時期に大量に採れる農作物の保存や通常給食で使用しにくい大きさ規格外の農作物・キズモノなどの対応の検討も必要と思われる。

【新しい給食施設の整備】として、

①おいしい給食の提供②食を通じた人々の交流③健康的な食生活の促進④地域の生産者や事業者からの支援等が必要である。

＜給食センター設備＞



＜懇談会＞



警備体制と防犯対策の徹底について

城山区長 内岡 正儀

今年7月19日(土)、城山団地で6件の住宅侵入窃盗(忍び込み、空き巣)があり、部屋を荒らされ金品が盗難される被害が発生いたしました。

一昨年(2023年)秋にも11件の空き巣がありましたが、今回は忍び込み(居住中に侵入)が主で傾向の違いがありました。また3連休での犯行タイミングは計画性をうかがわれます。

深夜、鍵を締め忘れた1階窓から家屋へ侵入、また1階の雨戸を外し、ガラス戸に小穴を開け内鍵を解除するという手口でした。いずれも部屋を物色され、金品を窃盗されるケースもありました。

侵入は家屋構造を把握し、専門用具を使う等手の込んだ方法の特徴としております。

日中に作業員や営業マンに扮して家屋外観をチェックしたり、戸別訪問して世帯状況(空き家・独居)を確認するなど、事前に「下調べ」をしている疑いも上がっております。

ある近隣地区では、複数の外国人が団地内を歩きながら犯行計画について話すのが聞こえたと、共通の母国語の住民からの報告もあります。

他方、別の近隣地区では、車庫の自家用車が盗まれた事例があり、当地区でも昼間に自家用車を留め置いた地面にチョークで印をつける行為が複数目撃されております。

つくば市の乗り物(自動車、バイク、自転車)の盗難件数はここ25年間、県内で常に上位をキープしており、2020年〜2024年は連続トップという不名誉な記録となっております。

なお、ALSOCK研究所が2024年に発表した統計によると、茨城の刑法犯遭遇率は大阪、群馬に次いで全国3位、146人に1件の割合でした。

「犯罪」は私たちの身近に常に存在する事を自覚すべきです。

当地区では事件を受け、地元警察へ定期的なパトロール(公助)を依頼しておりますが、加えて、自警団の見回り強化(共助)、各世帯での防犯対策(自助)と、防犯の意識を高め、私たち自身でできる事を今一度見直して取り組んでおります。

具体的には、各世帯での防犯センサー、防犯カメラの設置を奨励、市と警察と連携し、団地の各入口へカメラ付き防犯灯の設置に向け再発防止策を進めております。

茨城県警の統計によると、空き巣と忍び込みは交互に増減する傾向があります。

皆様の地区に於かれましては十分に対策を講じている事と存じますが、あらためて、平穩を当たり前とせず、ゼロトラストの観点から警備体制(共助)・防犯対策(自助)の徹底を強くお勧めいたします。

「ミズベリング」について

明神区長 鈴木 喜和

「ミズベリング」ってご存知でしょうか？

「ミズベリング」とは、十分に活用されていない日本の水辺活用の可能性を切り開く、国土交通省が進めるプロジェクトです。

ミズベリングの語源は、「水辺+RING(輪)」、水辺に興味を持つ市民や企業、行政がひとつの輪に

なつて、持続可能な水辺の未来に向けて改革していく。そんな意味が込められているそうです。

荻崎には、牛久沼があります。現在私は69歳ですが、小学2年生の夏休みには子供会で、昔の木の下で川泳ぎをしました。中学生になると、まぶな釣りに出かけ、田舟に乗って西谷田川を横断したこともありました。牛久沼の水辺には懐かしい思い出があります。

昨年、「ミズベリング」の取り組みを知り、水辺を盛り上げようと有志で企画し、森の里倉本区長の賛同を得て、7月7日(日)の七夕に、ミニイベントを開催しました。

夕方から森の里児童公園の草刈りをして、土手の沼側で夕日を眺めながら、ノンアルコールビールやミネラルウォーターで乾杯をしました。爽やかな風が吹く中、有志のクラリネットの演奏を聴きながら、格別なひとときを過ごすことができました。

今年も、7月5日(土)に、同じ場所で「ミズベリング」を行い、昨年と同じように草刈りの後、有志のギター演奏を聴き、皆で歌を歌って、夕陽に乾杯をして、楽しい時間を過ごしました。

<ミズベリング>



来年もまた、水辺を活性化すべく、「ミズベリング」の企画を行います。関心のある方は、ご参加ください。

くきざき夢まつり協賛金協力のお礼

荖崎地区区会連合会会長 小原 正彦

荖崎町時代から継続している「ひまわり祭り」を発展させたいので、なにか良いアイデアを提案してください」とひまわり祭りの実行委員長から相談がありました。どのよう催事をしていいのか分からなかった。昔からやっていることを極力減らして子供が喜ぶようなものを多くすると、実行委員会のメンバーを若手にやつて頂くようにしたら」と適当に答えたら「ウンジャ区会からも協力者を出してね」と。

それから地域のお付き合いが始まりました。荖崎全体の祭りなんだから、まず祭りの名前を変更しようとする多くの市民に名前募集を求めて決めたのが「くきざき夢まつり」です。

どのような夢なの？かるいなど声もありましたが「それを考えるのがこのグループでしょう！」と一喝し、協力を求めたら「そうだよそうだよ」と。皆さん黙々と頑張ってくださいました。その祭りが、今年11月9日(日)開催の第13回目でした。(写真は、昨年のまつりの様子の一部です)



祭り運転資金がギリギリで、荖崎の皆さん素直です。そこで3年前から無理だろうな〜と思いながら40

名の地区長さんに一口1万円の協賛金をお願いしましたら、なんとなんと30万円弱の協賛金が集まりました。ご協力に感謝申し上げます。

荖崎地区区会連合会からも、5万円をプラスしてくきざき夢まつりに協賛しております。

また、若手実行委員の方で、自営業の方が3、4人いらつしゃいますが、彼らも自腹から10万〜15万円と協賛金の協力をしてくださっております。

シニアの生き方紹介シリーズ⑮

四国遍路のご紹介

あしび野 有次 隆

四国遍路に行ってきました。

結願すると「遍路大使」に任命され、お遍路の普及に努めなければなりません。いい機会を頂きましたのでお遍路のご紹介をしたいと思います。

車で回る人が20万人くらい、そのうち歩き遍路は2、000人くらいです。総延長1、200km、日数は50日〜60日かかります。

1日歩行距離20km〜30kmです。

旅費の大部分は宿泊費です。沿線には民宿がたくさんあり、困ることはありません。素泊まりで4、000円、二食付きで8、000円が相場です。

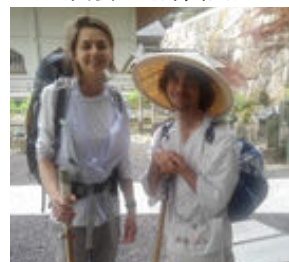
担ぐ荷物は、7kg以内に収めた方がよいと思います。慣れないうちは肩が痛いですね。

お遍路には「お接待」文化があります。接待をし、お遍路さんの功德のおすそ分けしてもらおうという文化です。見ず知らぬ人から親切を受けると感謝の気持ちで満たされます。

<筆者>



<出会った外国人>



道中90歳の人にも会いましたし、多くの外国人にも会いました。交流は広がります。

極度の疲労のため、不思議体験をする人がいます。生理学的に説明がつくことですが体験したら価値観が変わります。

遍路文化を世界文化遺産にしようと、地元は盛り上がりしています。1、200年の歴史、1、200kmの巡礼の旅をお楽しみください。

編集後記

諸般の事情から、本年度3回発行の予定が2回となり、今回第1号をお届けします。

山下副会長様から「荖崎給食レストラン」に係した「給食センターの見学」、城山区長内岡様から「住宅侵入事件と警備体制」、明神区長鈴木様から「ミズベリグ」、小原連合会会長様から「くきざき夢まつり協賛金の謝辞」、あしび野の有次様からは「四国遍路」について原稿をお寄せ頂きました。皆様に感謝します。

なお、今号に当区会連合会顧問稲川誠一様から「つくば市の地域活動と課題について」と題する原稿が寄せられましたが、紙面の都合上、ご本人の承諾を得て次号に掲載させて頂くこととしました。次号をご期待ください。(編集子)